

【 1 教科指導 】

重点課題	授業，学習指導の充実と生徒の学力向上支援体制を確立する。	
重点目標	全校レベル	○主体的な学習意欲の育成を図る。 ・基礎基本を大切にした「わかる授業」を展開する。
	下位レベル	1)教育課程の充実。 2)授業形態の充実。 3)授業評価の導入による授業改善，教員の指導力強化。 4)放課後の活用。 5)土曜日の学習活動。 6)長期休業中の学習。 7)家庭学習の確立。 8)教育活動の広報による更なる充実発展。
評価指標と活動計画	活 動 計 画	
	<p>1)弾力的な教育課程の編成を行う。</p> <p>2)シラバスを活用することにより，ガイダンス機能の充実と科目選択時における利便性の向上を図る。</p> <p>3)①授業評価の結果を分析し，各自が授業改善に努めるとともに，教科会で検討し，学力向上に努める。 ②相互授業参観月間で他の教員の授業を参観することにより，授業改善を図る。 ③授業力向上のための研修に参加する。</p> <p>4)社会科教室などの特別教室を開放しての放課後学習を実施する。</p> <p>5)土曜日において，英数国から2教科選択してテーマを絞った効果的な補習を実施する。</p> <p>6)補習等の出席率を上げ，学力向上を図る。</p> <p>7)計画的な家庭学習を確立させる。</p> <p>8)『アゴラ富西』および『PTA 会報』を発行する。</p>	
	評 価 指 標	
<p>1)各教科・科目の単位数がバランスよくとれている教育課程になっているかを検討する。</p> <p>2)シラバス(授業計画)の活用を推進する。</p> <p>3)①授業評価を前後期各1回実施し，学力向上のための教科会も連動して実施する。 ②他の教員の授業を10回以上参観する。 ③予備校が主催する入試研究会や授業力向上のための研修に参加する。</p> <p>4)毎週月～金の放課後，社会科教室などの特別教室を学習室として開放する。</p> <p>5)土曜日午前中の補習を後期で15回実施する。</p> <p>6)①1・2年次生:長期休業中の全員補習出席率90%以上。 ②3年次生:希望選択の補習出席率90%以上。 ③進学希望者による早朝・放課後マーケットレーニングについて，必要な科目ごとの参加率80%以上。</p> <p>7)面接などによる学習状況の把握や支援および週末課題の作成と点検を行う。</p> <p>8)『アゴラ富西』を年間3回，『PTA会報』を年間1回発行する。</p>		

	<p style="text-align: center;">活動計画の実施状況</p> <p>1)教育課程の見直しを図った。 2)シラバス活用の定着化を図った。 3)①授業評価を前・後期で各1回実施し、教科会も定期的に行えた。 ②他教員の授業参観を10回以上実施した。 ③駿台難関大入試研究会に3年次英数国教科担任、ベネッセ・河合塾入試研究会に3年次担任、低学年進路研究会に1・2年次担任が参加した。 4)毎週月～金の放課後、特別教室を学習室として開放した。生徒・保護者の満足度86%。 5)1・2年次の希望者234名に対して土曜日の午前中に英数国から2教科を選択して80分×2コマの補習を実施した。なお全ての教科で習熟度別で実施した。 6)1年次の夏季休業中の補習の反省から冬季休業中の補習では英数国で習熟度別補習を実施した。 7)各年次・各教科で主にその週に学習した内容の復習ができるよう課題を作成し、金曜日にクラスに配布し月曜日に提出させ、評価点に加える指導を継続して行った。また校外模試対策やレポート問題の作成など各教科で工夫を凝らした。 8)『アゴラ富西』を年間3回、『PTA会報』を年間1回発行した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p style="text-align: center;">評価指標による達成度</p> <p>1)来年度以降の教育課程については、世界史Bの選択を可能とし、理科の単位を増やし、現代文を必修化するなどバランスのとれたものとなった。 2)各年次の年次集会や総合的な学習の時間でシラバスを活用し、次年度の科目選択を行った。 3)①授業評価が授業改善に役立っていると考える教員・生徒が10%多くなっている。 ②生徒の半数以上が相互授業参観が授業改善につながっていると考えている。 ③駿台難関大入試研究会に3年次英数国教科担任、ベネッセ・河合塾入試研究会に3年次担任、低学年進路研究会に1・2年次担任、さらに学研小論文指導研究会に多くの教員が参加した。 4)毎週月～金の放課後、特別教室を学習室として開放した。生徒・保護者の満足度は91%で昨年度とほぼ同じであり、利用生徒に限るとその満足度は88%にのぼった。 5)9月13日(土)より1・2年次生の希望者234名(昨年度235名)に対し、英数国から2教科を選択させ15回の補習を実施した。(昨年度17回) 6)①補習出席率 1年次夏季補習 91.2%(昨年度96.1%) 冬季補習 87.2%(同90.8%) 平均89.0%(同90.3%) 2年次夏季補習 86.2%(同89.4%) 冬季補習 81.6%(同87.2%) 平均85.2%(同88.3%) ②3年次夏季補習希望者 延べ人数808名(昨年度799名) 91%(同88%) 冬季補習希望者 延べ人数307名(同353名) 87%(同92%) ③センター試験受験予定者209名による早朝マーケットレーニングを実施した。参加率 各教科3回(10～12月)の平均英語71%, 数学57%, 国語54%であった。 7)各年次・各教科で主にその週に学習した内容の復習ができるよう課題を作成し、金曜日にクラスに配布し、月曜日に提出させ、評価点に加える指導を継続して行った。また校外模試対策やレポート問題の作成など教科で工夫を凝らした。 8)『アゴラ富西』を年間3回、『PTA会報』を年間1回発行した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">総合評価</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>

<p>成果・問題点</p>	<p>3) 授業評価や相互授業参観により、教員の授業への取組は大きく変化したと考えられる。教員の努力がすべての生徒に理解されるのは困難であるが、授業評価については約 1/3, 相互授業参観については約 1/2 の生徒が、授業に何らかの変化を感じ取ったのは大きな成果である。</p> <p>また、教科会を取ることはできたが、教科により、実情が異なるので一斉には困難である。</p> <p>4) 更なる学習環境の充実に取り組む。</p> <p>5) 生徒の休日における学習時間の確保につながった。</p> <p>1 年次出席率 67.3%</p> <p>2 年次出席率 55.5% 但し、公欠等は欠席扱いとした。</p> <p>部活動等の理由により出席できなかった者への何らかの対応が必要である。</p> <p>土曜補習が生徒の学力向上につながっていると考える教師の割合が前年度より増加していない。</p> <p>6) ①授業で扱いきれなかった内容を、長期休業中の補習で時間をかけて補充することができた。出席率の評価指標の達成度は昨年度を上回った。</p> <p>7) 週末課題により休日の家庭学習時間が増えた。</p> <p>○授業改善の様々な取組は、生徒にとってわかる授業につながる具体策を練ることと、その状況の検証を実施することが必要である。</p> <p>○評価の高い放課後学習や土曜日補習の質的、量的な充実。放課後学習での教員の組織的配置や土曜補習への部活動部員参加の保証。</p> <p>8) アゴラ富西については、8 割近い保護者の方から学校と家庭の連携に役立っているとの回答を得ることができた。反面、生徒の回答は 6 割程度にとどまっている。</p>
<p>次年度の改善点</p>	<p>1・2) さらにカリキュラムの見直しが必要なものは検討する。</p> <p>3) ①授業評価・相互参観授業の時期や回数、形態について、教科主任会を中心に検討し、より効果的なものとしていく。教科会についてはより定期的に行うよう努め、また、各教科で不定期にとったとしても内容をファイルに記録することにする。</p> <p>5) 希望しているにもかかわらず出席できなかった者への、教材の配布体制作りが必要。また、講座担当者が土曜日補習に他の業務と重ならない割り当てが必要である。</p> <p>・1 年間の長期的な視野に立った組織体制が必要</p> <p>6) 理由もなく補習を欠席した者に対して、登校を促す担任からの指導や、土曜日補習教科担当者との連携を強化する必要がある。</p> <p>7) 週末課題の各教科間の調整は引き続き必要である。</p> <p>○週末課題の実施が家庭学習時間の確保につながっているか生徒の意識調査で検証する。</p> <p>○学力向上の全ての取組と全国模試の結果による成果の検証。</p> <p>○ 長期休業中補習の見直し。</p> <p>8) 生徒の回答が芳しくない理由として『アゴラ富西』は保護者へ直接郵送されるので生徒の目に触れる機会が少ないためだと思われる。今後、廊下に掲示するだけでなく各教室にも掲示してはどうかと思う。</p>

【2 生活指導】

重点課題	規範意識の一層の向上（ルールを守る心，モラルやマナーを守る心の育成）に努める。	
重点目標	全校レベル	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の確立を図る。 ○一人ひとりの生徒理解と個性の伸長を図る。 ○生命の尊重と人権意識の涵養を図る。
	下位レベル	<ul style="list-style-type: none"> 1) 頭髪・服装検査，遅刻指導の充実。 2) 個人面談の充実。 3) 交通安全指導の充実。 4) 積極的・予防的生徒指導の展開。
評価指標と活動計画	活 動 計 画	
	<ul style="list-style-type: none"> 1) 頭髪・服装違反，遅刻，特別指導の件数を減少させる。 2) ①保護者と連携した生徒指導を推進する。 ②面接週間を設定し，三者面談を実施する。 3) 交通事故防止に努める。 4) 年次会を充実させる。 	
	評 価 指 標	
<ul style="list-style-type: none"> 1) 全校集会や年次集会を通じて，頭髪服装検査を実施するとともに，基本的な生活習慣の定着を推進する。 毎週末，遅刻指導を実施する。 2) ①電話連絡・文書連絡，必要に応じて家庭訪問を実施するなど保護者との連携を図る。 ②面接週間を年間5回（各年次面接），三者面談を年間1回実施する。 ③いじめ・迷惑調査を継続的に実施する。 3) ①交通マナーアップ活動を実施する。 ②自転車・原付自転車の整備点検を実施する。 ③学校安全の日に街頭指導を実施する。 4) 年次会での情報交換を充実する。 長期休業中に関係機関と連携し，合同街頭指導を実施する。 		

	<p style="text-align: center;">活動計画の実施状況</p> <p>1) 年間7回の全校集会や年次集会、学校行事等で頭髪・服装検査や基本的な生活習慣の育成指導を行った。毎週末には遅刻生徒に対して個別指導を実施して遅刻の減少に努めた。</p> <p>2) ①長期休業中前に保護者宛に文書を通じて、いじめ・問題行動・事故防止に努めた。 ②面接週間を4回、夏期休業中に三者面談を実施した。また、4月から3年次生全員を対象に校長面接を実施、2年次生を6月、1年次生を10月に全員を対象に生徒指導課及び各課長・年次主任による個人面接を行い、校内外生活の支援や進路について考えさせる機会とした。 ③11月に学校生活(いじめ・盗難等)についてのアンケートを実施し、本校の実態把握に努めるとともに全教職員で生徒指導の取組みを再確認した。</p> <p>3) ①毎月、学校安全の日に街頭8箇所で行った。また交通安全週間や学期の始めに職員が協力して街頭指導を行った。 ②生徒会が中心となり登校時に「あいさつ運動」を展開、交通マナーアップを呼びかけた。 ③自転車・原付の整備点検を行い、整備不良の改善を図った。 ④原付運転免許証取得者を対象に実技講習会を実施した。</p> <p>4) 年次会で情報交換し、生徒理解と指導について共通理解を図った。 *長期休業中に阿南市青少年健全育成センター、関係中学校、保護者が連携し市内の合同街頭指導を実施した。</p>
	<p style="text-align: center;">評価指標による達成度</p> <p>1) ①全校集会や年次会で頭髪・服装検査を実施したことにより、正しい制服の着用について意識が高まったと判断できる。 ②毎週末、遅刻者に対する個別指導を実施することにより前年度と同様に遅刻者数を減少させることができた。 ③個人面接を重視することが積極的な生徒指導に繋がり特別指導する生徒は少なかった。</p> <p>2) 個人面接を重視することにより生徒理解が深まり、生徒一人ひとりの成長を支援することができた。</p> <p>3) 街頭交通指導や生徒会の交通マナーアップ活動が活発になった。生徒の交通安全に対する意識の高まりを見せた。本年度も重大事故は発生しなかった。</p> <p>4) 年次会を充実させることにより、生徒指導・進路指導において共通理解を図ることができ、生徒の成長を支援することにつながった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">総合評価</p>	<p style="font-size: 2em;">A</p>

<p>成果・問題点</p>	<p>1) 頭髪・服装指導により全体的に違反者が少なくなった。頭髪・服装検査時の違反者は少ないが普段の学校生活での正しい制服の着用指導が課題である。特に女子生徒のスカート丈や上衣の下からはみ出すカーディガンやセーターの着用が目立った。少人数の生徒であるが改善されない生徒がみられた。</p> <p>毎週末の遅刻指導の実施により遅刻者は前年同様に減少した。遅刻の多かった生徒が本年度になり遅刻しなくなった等の成果があった。しかしながら少人数であるが改善されない生徒がみられた。</p> <p>特別指導した生徒は前年同様少なかった。</p> <p>2) 個別面接を重視することにより、生徒と教師の好ましい人間関係づくりに繋がった。</p> <p>特設しての全生徒を対象にした個人面接は校内外生活の支援や進路について考えさせる良い機会になった。</p> <p>3) 学校安全の日に実施する街頭交通安全指導、生徒会を中心とした交通マナーアップ活動の実施は交通ルールやマナーを守る意識付けにつながった。</p> <p>自転車通学生の登下校時の並進・信号無視など交通マナーの悪さを指摘されることがあった。道路交通法違反行為が重大事故や迷惑行為につながることを指導し事故防止にや規範意識の高揚に努めていきたい。</p> <p>交通安全週間や時期を定めて教職員が協力して街頭交通マナー指導を行った。</p> <p>重大事故は発生しなかった。</p> <p>4) 各年次会において情報交換を実施することにより、1人ひとりの生徒理解が図られ進路指導や生徒指導の充実につながった。</p> <p>*長期休業中の関係機関・関係中学校・保護者との合同街頭指導は事件・事故の未然防止に大きな効果があった。</p>
<p>次年度の改善点</p>	<p>1) 頭髪・服装指導は正しい制服の着用ができるよう全教職員が共通理解し、保護者と連携を図りながら粘り強く指導していく。</p> <p>生徒会活動の活性化を図り生徒自らが正しい制服の着用について呼びかけができるように支援する。</p> <p>2) 年間を通しての面接週間を継続するとともに特設した全生徒面接を計画し積極的生徒指導を推進して問題行動やいじめなどの未然防止に努めていく。</p> <p>いじめ問題について、いじめはあるとの認識を持ち「いじめは絶対に許されるものでない」との意識を持ち、生徒1人が悩みを抱え込んでしまうことがないように、学校教育活動全体を通じていじめ問題に取り組む。いのちの大切さを知らせ、人権意識を基盤とした仲間づくりや人権意識の涵養に努める。</p> <p>3) 関係機関との連携を密にして交通事故防止教育の充実を図る。</p> <p>学校安全の日、交通安全週間、特設した街頭交通マナー指導を継続し事故防止に努める。</p> <p>生徒会活動を中心としての生徒の自主的な交通マナー活動を支援していく。</p>

【3 人権・特別支援教育】

重点課題	人権問題HR活動を充実させるとともに、学校生活のすべての場面で、相手の立場になって考え、行動できる生徒を育成する。	
重点目標	全校レベル	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全体を通じて、人権尊重の精神の涵養を図る。 ○生徒一人ひとりが自らの人権意識を高め、相互間の人権上の問題を見抜く感性を高める。 ○学校生活上、問題を抱え、支障をきたしている生徒・保護者に対する支援を行う。
	下位レベル	<ul style="list-style-type: none"> 1) 各クラスの人権問題 HR 活動の活性化。 2) 人権啓発紙「じんけん富西」の充実。 3) 人権問題講演会、映画会、全校集会等、学校行事の中での啓発。 4) 生徒人権委員会、社会問題研究部など生徒の自主活動の育成。 5) 教職員人権教育研修の推進。 6) 学校、保護者、地域社会との連携。 7) 学校生活上、問題を抱え、支障をきたしている生徒・保護者に対する支援。
評価指標と活動計画	活 動 計 画	
	<ul style="list-style-type: none"> 1) 各クラスの人権問題 HR 活動を各年次 7 時間設定する。HR 活動については事前研修会を実施する。 2) 「じんけん富西」に人権委員会の意見を反映させる。 3) 富西人権の日（人権問題に関する行事）の企画、映画会・講演会の HR 活動で感想文の作成とアンケートを実施する。 4) 全校集会での人権委員長による啓発活動、富西祭に向けての展示や社会問題研究部による自主研修を行う。 5) 校外の研修会等への積極的な参加と校内教職員研修会で人権意識について教職員間の共通理解を図る。 6) PTA 人権教育推進部での研修、親睦バレーボール大会へ参加し、親睦を深める。 7) ①特別支援教育研修の推進。 ②発達障害への理解と校内体制の整備。 ③発達障害のある生徒・保護者への支援と校外関係諸団体との連携。 	
	評 価 指 標	
<ul style="list-style-type: none"> 1) 各クラスの人権問題 HR 活動の満足度の向上。 2) 「じんけん富西」の内容の充実と年間 5 回の発行。 3) ①富西人権の日を月 1 回実施。 ②人権問題講演会、映画会等の満足と事後指導の充実。 4) 人権委員会委員長や社会問題研究部の啓発活動の実施 5・6) 教職員の校外における研修会等への参加と校内教職員研修での報告会を年間 2 回実施。 7) 教育相談職員研修会の実施。（年 3 回） 		

評価	活動計画の実施状況
	<p>1) 人権問題 HR 活動を、各年次 7 回実施した。</p> <p>2) 「じんけん富西」は表裏印刷して人権委員会の意見や感想および教職員の意見を多く掲載できるようにした。</p> <p>3) 正副担任のメッセージや人権講演会など、年間を通して行事の企画運営を行った。</p> <p>4) 全校集会での人権委員長による啓発活動、富西祭に向けての展示や社会問題研究部や人権委員会による自主研修を行った (11/16 那賀川道の駅での「身元調査お断り」ワッペン運動、12/21 中高生による人権交流集会に参加)。また、JRC 部が児童福祉施設、老人ホーム等でボランティア活動を行った。</p> <p>5) 人権教育課から各年次に研修会参加を依頼し、校内教職員研修では新入生の人権問題意識調査の分析、各種研修会の参加報告、人権教育の指導方法のあり方「第 3 次とりまとめ」等について研修を行った。</p> <p>6) PTA 人権教育推進部研修(6/3)、親睦バレーボール大会(8/24)、那賀川道の駅での「身元調査お断り」ワッペン運動(11/16)、阿南市人権教育研究大会(2/7)に参加した。</p> <p>7) 生徒自身が自ら問題解決に向かう支援計画を検討し、個別の支援を行った。</p>
	評価指標による達成度
	<p>1) グループ学習や講義形式、ビデオ視聴、ワークシート使用など、主題やクラスの状態に応じて様々な形での HR 活動が実施できた。</p> <p>2) 「じんけん富西」を年間 5 回発行し、毎回両面を使用し、人権委員会の意見や感想および教職員の意見を掲載した。</p> <p>3) ①富西人権の日を毎月 1 回実施した。 ②人権問題講演会、映画会の後、感想文作成や話し合いを HR 活動で行った。</p> <p>4) 7 月の全校集会で生徒人権委員長から啓発のスピーチをした。</p> <p>5・6) 人権教育課から各年次に研修会参加を依頼し、校内教職員研修を年間 4 回実施し、その中で校外の研修会の参加報告を 4 回実施した。さらに校内教職員人権問題研修会の後で年次会を設け、次の HR 活動指導案を検討する時間を確保した。</p> <p>7) 教育相談職員研修会を 4 回実施した。</p>
総合評価	A
成果・問題点	<p>1) 人権教育についての満足度は、生徒個々に判断基準がまちまちである。 人権問題 HR 活動前の教職員人権問題研修会の中に年次会を設け、事前検討会として活用できた。</p> <p>2) 生徒の人権問題 HR 活動への参加の方法は、感想や意見の発表という形のみであったが、参加人数や提出数が増加した。3 年次については、人権問題意識調査を始めて実施した。</p> <p>3) ①月一回の「富西人権の日」に関連行事を実施し、人権について考える時間や機会を持つことができた。 ②生徒の感想や意見を具体的に詳しく理解することができた。</p> <p>4) 全校集会という場で、生徒人権委員長から全生徒に直接訴えることで啓発の効果は大きい。</p> <p>5・6) 校外での人権問題研修会の開催の時期により、他の校務と重なり参加できなかったという人の意見が多い。</p>

<p>次年度の改善点</p>	<p>1) 人権教育についての満足度を客観的に図ることのできる仕組みを考えていく必要がある。</p> <p>2) 生徒人権委員が「じんけん富西」の発行に携われるように工夫する。</p> <p>3) ①実施する行事により，生徒がテーマや内容を理解する差がないような説明をしていく。 ②講演会・映画会等は生徒の関心・理解・共感が得られる大きな行事であり，講師や映画の選定にさらなる研究や工夫が必要である。</p> <p>4) 社会問題研究部と生徒人権委員会より一層の連携が必要である。</p> <p>5・6) 校務の多忙さを周囲が補う形で，多くの教職員が校外での人権問題研修会への参加できるように工夫する。</p>
----------------	---

【 4 進路指導 】

重点課題	進路設計と情報活用能力を育成する。	
重点目標	全校レベル	<ul style="list-style-type: none"> ○進路相談の充実を図る。 ○キャリア教育（職業観育成教育）を推進する。 ○本校の進路指導を保護者・生徒に広報し、理解を促す。
	下位レベル	<ul style="list-style-type: none"> 1) 個人面談の充実。 2) 生徒個々の職業観育成を目指し、外部と連携した支援を推進する。 3) 年次団等による相談体制・面談プログラム整備。 4) 進路指導の系統的展開。 5) キャリア教育としての総合的な学習の研修・検証・改善。 6) 学校教育についての情報共有・交換を促進。
評価指標と活動計画	活 動 計 画	
	<ul style="list-style-type: none"> 1) 模試返却時は個別に返却し、データの見方や各自の勉強のポイントを指導する。 2) 生徒実態に応じて適時、個人面接を行い、外部機関等とも連携し生徒・保護者を支援する。 3) ①進路設計についてのテーマに沿った HR 活動を年次で実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ②各年次でテーマを決定し、進路指導を実施する。 1 年次：望ましい職業観 2 年次：学部学科の研究 3 年次：受験までのスケジュール、志望理由、面接、教科別受験対策など 4) ①生徒・保護者対象の進路講演会を実施し、最新の進路情報を提供する。 <ul style="list-style-type: none"> ②CAI 教室の利用を促す。 5) 進路設計への総合学習の効果を検証する。 	
	評 価 指 標	
<ul style="list-style-type: none"> 1) 全年次で個人面談を年間 5 回実施する。 2) ①職業別ガイダンス（1 年次生）5 月に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ②学部系統別進路ガイダンス（1・2 年次生）を実施する。 ③夏季休業中のオープンキャンパスへ参加する。 3) 進路設計についての HR 活動を各学期 2 回実施する。 4) ①各年次で進路講演会を年間 2 回実施（生徒対象 1 回、保護者対象 1 回）する。 <ul style="list-style-type: none"> ②PTA 支部会における学校説明会に積極的に参加する。 5) 修学旅行 2 日目にグループごとのテーマに沿った企業・大学訪問や職業体験などを実施する。 		

	<p style="text-align: center;">活動計画の実施状況</p> <p>1) 個人面談は予定通り実施した。</p> <p>2) ①職業観の早期育成を目的に1年次生対象に職業別ガイダンスを実施した。医師・教師など24種の講座を開設し、40分を1コマにして1人につき2講座を受講し理解を深めた。 ②生徒の進路希望調査に基づき、27講座に類型化し3月13日(金)に実施。各大学と講師派遣を調整し、好評のうちに終えた。</p> <p>3) 2年次：前期は科目履修で2回実施(年次集会含む)後期は面接週間で進路に関する意識を高める取り組みを学年全体で取り組んだ。</p> <p>4) ①1・2年次：11月進路講演会実施(ベネッセコーポレーション 山河 健二氏)保護者対象は同日山 敦司氏が講演。3年次生は駿台予備校 西 昭広氏が講演。 ②鷲敷・見能林・新野・福井支部にて本校の進路指導について説明。</p> <p>5) 1・2年次生は、進路希望、興味・関心に応じた研究テーマを設定し、課題研究を通して、社会への視野を広げるとともに情報活用能力を養った。3年次生は、小論文とディベートで進路実現に向けた表現力の育成を図った。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p style="text-align: center;">評価指標による達成度</p> <p>1) 各HR担任は模試返却時、個別に返却しデータの見方や各自の勉強のポイントを指導した。</p> <p>2・3) ①アンケート調査による進路設計についてのHR活動の満足度は、教職員85%(昨年度90%)、生徒68%(同63%)、保護者84%(同84%)。 2年次は総合学習で行われることが多く、HR活動の位置づけが不明確であった。 ②各年次でテーマを決定し、進路指導を実施した。 【テーマ】1年次：望ましい職業観 2年次：学部学科の研究 3年次：受験までのスケジュール・志望理由・面接・教科別受験対策 ③オープンキャンパスへの参加率 (1年次：25%(昨年度20%)、2年次：52%(同57%)、3年次：75%(同66%)、平均50%(同48%))</p> <p>4) ①5月に学年集会にて進路別講演会(駿台予備校 西 昭広氏)。保護者6月に本校進路課長より進学説明。 1・2年次：11月に進路講演会、保護者対象の講演会実施。 ②3年次生は志望大学の入試情報をインターネットで収集し、出願校決定のため志望校判定システムを使えるよう指導しCAI教室を活用した。 1・2年次生は総合学習の発表にも利用されることが多くなった。</p> <p>5) 修学旅行での研修活動等の活動を生かした課題研究に2年次では取り組み、最終発表会では講座の研究発表が行われた。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">総合評価</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>

<p>成果・問題点</p>	<p>2) ①進路ガイダンスは、生徒にはおおむね好評である。</p> <p>③1年次のオープンキャンパスへの参加率は2年間で倍増したが依然として低い。2・3年次については目標に近い数値である。</p> <p>2・3) 各年次会で進路設計についてのHR活動のテーマや内容について資料や入試情報等を集めるなど、深く練られたものになっていない。</p> <p>4) ①進路講演会も生徒・保護者とも好評(平均80%が満足)。特に3年次の進路別集会は、専門学校・就職希望生にきめ細かいガイダンスが実施できた。</p> <p>②PTA支部会で進路課の説明を加えたことで保護者の参加が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次の学年PTAは本校職員による学校独自の内容に変え休日に実施したことで参加率が大幅に増加している。 ・1年次の翌年の履修科目選択の説明会も保護者の参加人数が大幅に増加した。 ・センター試験後の志望校判定の検索を自分で納得するまでできる点は生徒・保護者ともに好評。 <p>5) 特に、課題研究では、生徒の興味・関心を拡大し、生徒の漠然とした進路設計に具体性をもたらすことができた。しかし、多くの生徒が課題研究に修学旅行での研修内容を取り入れ活動できたが、生徒によっては十分な研修への事前学習が行えず満足する成果が得られなかった。課題研究での情報収集活動の意義等の確認と支援強化が必要である。</p>
<p>次年度の改善点</p>	<p>2) ③低学年次に対する啓発活動を進路のHR活動で行う。</p> <p>2・3) 年次会で扱う内容について勉強会を持つ。</p> <p>4) ①今後も生徒の進路に応じた講演会・説明会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者部会はできるだけ参加しやすい時間に設定する。 <p>②PTA活動で、さらに多くの支部会の開催を期待する。支部会には必ず進路課員が参加し、説明したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模試業者の検索システムの使い方について生徒に丁寧に説明する。 <p>*進路問題についてのHR活動を生徒にとって魅力的な内容にするため、創意工夫が必要である。</p> <p>5) 自主的・自発的な生徒活動を主体とする総合的な学習ではあるが、活動手順や到達目標をより明確に示すことで活動をより充実・活性化させる必要がある。そのためには、課題研究活動を幾つかのセクションに分け、それぞれの目標・具体的な手順を示し、その都度確認・検証できるプログラムに修正が必要である。</p>

【5 特別活動】

重点課題	学校行事や部活動のさらなる活性化を図るとともに、幅広く調和の取れた人材を育成する。	
重点目標	全校レベル	○集団活動を通して、集団や社会の一員としてのよりよい在り方、考え方を育成するとともに、自己管理能力や自主的、実践的な態度を身につけさせる。
	下位レベル	1) 学校行事と部活動を充実させる。 2) 生徒会活動や各種専門委員会活動、ホームルーム、部活動が連携するとともに、それぞれの活動の活性化を図る。 3) 部活動を通して自己管理能力を高める。
評価指標と活動計画	活 動 計 画	
	1) ①学校祭を9月実施とし、一般公開する。その他、学校行事については事前指導を行ったうえで実施する。 ②部活動紹介、部活動顧問会議を実施する。 ③県高校総体や四国大会、全国大会の壮行会を実施する。 2) 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を実施する。 3) 生徒の自己管理能力の育成についての共通理解を図る。	
	評 価 指 標	
評価	活動計画の実施状況	
	1) ①学校祭実施要領で改訂した内容や役割分担、連携の部分を見直した。 ②部活動顧問会議で、活動のあり方や注意点について顧問間の共通理解を深めた。 ③各大会壮行会では、選手の激励とともに全生徒に所属感を味わわせるようにした。 2) 各委員会・研修会ともに内容を整理して実施した。 3) 主将・部長会議を開催し、部活動のあり方やリーダーとしての心構えについて研修を行い、集団活動におけるマナーについて確認指導した。	
	評価指標による達成度	
評価	1) ①学校祭の一般来場者は昨年より約3割ほど減少した。また学校行事に対する充実度は92%（昨年度92%）であった。 ②長期休業中に部活動単位で奉仕活動を計画し、校内外の美化に努めた。また部活動入部率88%（昨年度84%）となった。 ③生徒主体で県高校総体・四国総体等の壮行会を実施した。 2) ホームルームリーダー研修会を2回、各種委員会を2回実施した。 3) 主将・部長会議の決定事項が遵守でき、練習環境の整備や生活面の改善が見られた。12月以降2通りの学習時間調査を実施した。月間は継続的に記入を行い、自己管理能力の育成をはかった。週間は3回実施し、状況分析を行った。 「自己点検・学習時間調査」は「生徒の自己管理能力の育成に役立っている」というアンケート結果は、教職員82%（昨年度73%）、生徒67%（同62%）、保護者82%（同73%）であった。	

総合評価	A
成果・問題点	<p>1) ①学校祭実施日は富岡東高校・小松島高校の学校祭と同日で、その上近隣の中学校は学校行事がありその関係で生徒来校者が減少した。しかし、一般来校者の人数は昨年とほぼ同じなので学校祭の公開は定着していると考えられる。また、実際の状況においての検証で、来校者で混雑し運営生徒との間で様々な問題が起きなかった点からすると 700 人～800 人くらいが安全かつ比較的スムーズに当日運営ができる妥当な来校人数かと考える。学校行事に対する充実度も昨年並みであり、自発的取り組みができた。</p> <p>②評価指標目標値が高い水準にあるとともに、校門前での朝の挨拶運動や長期休業中において部活動単位で校内外の清掃作業をするなど昨年からの取り組みも引き続き自主的によくおこなった。</p> <p>③全校あげて壮行会を実施したことで生徒全体の士気を高めることができた。</p> <p>2) 各種リーダー研修会は予定回数を実施し、効果的な部分もあるが、形骸化される傾向にあるので危惧される。</p> <p>3) 生徒への意識付けにより生徒自身が自己理解を深めようとする姿勢が見られた。教職員は生徒個々の実態を把握することによって、相談・支援に活用できた。</p>
次年度の改善点	<p>1) ①生徒実行委員の活動体制と内容の充実や工夫に努め、学校行事をより意義深いものにする。</p> <p>②入部率の向上など部活動を活発にする一方、主活動や各種奉仕活動を通じて各部の重点目標の達成と個々の成長につながる取り組みを引き続きおこなう。</p> <p>③生徒主体の取り組みで、しっかり意識付けを行い壮行会をより意義深いものにする。</p> <p>2) 各種委員会の活性化を促し、具体的活動の内容を全体に知らせる。</p> <p>3) 調査結果を生徒が比較検討するなどして自己理解を深められるよう担任や各教科担任と連携して取り組む。</p>

【6 単位制・総合的な学習】

重点課題	単位制についての広報活動を充実させるとともに、自分の進路を見つめて、自ら計画・選択する自己管理能力を育成する。	
重点目標	全校レベル	<p>○充実した教育展開に向けての教職員の資質の向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制のガイダンスの充実。 ・総合的な学習の時間の充実。
	下位レベル	<p>1) ①新入生への単位制ガイダンスの充実 ②単位制についての広報活動を活発にし、理解を深める。</p> <p>2) 総合的な学習を通して自己のあり方生き方や進路についての自覚を高める。</p>
評価指標と活動計画	活動計画	
	<p>1) ①教務規定・シラバスを活用して新入生への単位制ガイダンスを実施する。 ②学校説明会において単位制についての説明を充実させ、中学生や地域に対して啓発する。 ③単位制を検証し改善していく。</p> <p>2) 総合学習の「富西プログラム」を生かして自己管理能力を育成する。</p>	
	評価指標	
<p>1) ①新入生への単位制ガイダンスを2回とる。 ②単位制における生徒・保護者の満足度を上げる。 ③「富西 Q&A」を改訂し、単位制についての理解を深める。</p> <p>2) 総合学習テーマ「社会探究」において ①1年次では課題を発見し、自身の研究テーマを見つける。 ②2年次では研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間2回発表会を実施する。 ③3年次ではディベートと小論文を年間6回実施し、表現力強化を目指す。</p>		
評価	活動計画の実施状況	
	<p>2) 3年間の「富西プログラム」を通して、自己や社会への理解を深め、学問への興味関心を拓けることにより、自己管理能力を育成した。</p>	
評価指標による達成度		
<p>2) ①高校での学習と学問・職業との関わりを学習するとともに、課題研究の基礎技術・知識について学んだ。 ②修学旅行での研修活動等の活動を生かした課題研究に取り組み、11月に中間発表会、2月に最終発表会、3月に選抜発表会を実施し、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力育成を行った。 ③HR 単元に6テーマについて小論文・ディベートを行い、表現力強化を行った。</p>		
総合評価	B	

<p>成果・問題点</p>	<p>2) ①プログラム終了後の生徒の満足度は昨年同様、高い結果をアンケートで得ている。推薦入試に研究内容を活用したアンケート結果は、推薦入試を利用している生徒数からみて、進路実現に総合的な学習内容が十分活用されている結果となっている。</p> <p>②総合的な学習の自己のあり方や進路への有効性について、教職員のアンケート結果が昨年同様に（昨年度 44%）低い評価となった。総合的な学習を担当する教員とそうでない者では、実施内容についての掌握状況から十分な評価材料を持ち得ない点と個々の教員の教育観が評価に影響していると思われる。また、目先の結果や数値による評価を強く求める傾向が、総合的な学習の時間そのものへの評価となっているようにも思える。</p>
<p>次年度の改善点</p>	<p>2) ①総合的な学習のそれぞれの展開における具体的成果を検証するための資料収集方法を検討し、導入する必要がある。本プログラムはその性質上、3年間を通しての結果が重要である。そのことから、進路実現に学習内容がどのように生かされたかをより詳細に評価する方法に改善するとともに、プログラムそれぞれの年次では生徒の変容が把握できるような評価方法の開発が必要である。</p> <p>②総合的な学習での生徒活動は、プログラムの効果等を十分理解した支援者がいて初めて生かされる。そのためにも、全教職員が3年間通じてのねらいや各展開における期待される効果等について理解を深める機会を多く設け、支援担当者の具体的支援技術の研修を強化する必要がある。</p>